

[第661回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和5年10月11日(木) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 大阪放送 大会議室

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

出席委員の氏名 成瀬 國晴 河内 厚郎
たつみ 都志
鎌田 雅子(書面参加)
上林 寛和(書面参加)
徳永 潔(書面参加)

放送事業者側出席者の氏名

吉野 達也 志知 直哉
横井 宏司 赤松 加枝子

4. 議題

- 1) 番組審議 『ラジオ大阪 開局65周年・弁天町移転30周年記念特別番組
「World Bentencho Carnival 大阪・関西から世界へ」』
- 2) 「大阪を前へ!」「兵庫を前へ!」について
- 3) その他

5. 議事の概要

議題1) 『ラジオ大阪 開局65周年・弁天町移転30周年記念特別番組
「World Bentencho Carnival 大阪・関西から世界へ」』について、番組の
企画意図と内容を説明し、意見を聞いた。

社 側 ラジオ大阪は、65年前、1958年7月1日に大阪市北区梅田・桜橋で誕生しました。30年前の1993年3月に大は阪市港区・弁天町に移転し、今年2023年7月1日に開局65周年を迎えました。年齢で言えば65歳、企業では定年を迎える歳です。ラジオ大阪は「65歳。もう、好きにやります。」の言葉を掲げ、“第2の人生”を歩み出しました。また1年9ヶ月後には「大阪・関西万博」も控えていることもあり、『ラジオ大阪 開局65周年・弁天町移転30周年記念特別番組「World Bentencho Carnival 大阪・関西から世界へ」と題し、ゆかりのある方々に登場していただき、朝5時30分から深夜1時まで19時間半にわたり生放送でお届けしました。今回審議していただく内容は、6時30分から8時までの「レジェンドゾーン・第1部」です。ご審議のほどよろしく申し上げます。

<各委員のご意見>

委 員 周年に相応しい豪華な番組で終始楽しめた。西川きよしさんの話はどの話もおもしろく貴重な話ばかりだった。やっぱりラジオは、当時のことを思い出したりしながら聞けてイメージーションが膨らむのが醍醐味。ラジオ大阪の開局当時を知る浜村さんのお話や昔のスタッフの方の貴重な話の数々はただのお祭りムード、お祝いムードの番組ではない雰囲気が出てよかった。「65歳。もう、好きにやります。」の言葉通り、型にハマらないはっちゃけた番組を楽しみにしている。

委 員 やすしきよしの漫才や浜村淳さんの声にノスタルジーを感じた。西川きよしさんは昔と今では声など全然違うが、頭の回転が速く、周りへの気遣い方は全く変わっていない。そういった部分は凄くリスペクトしている。浜村さんも昔と今で声や話し方が違うが、内容が濃く、締め方がうまい。自分の一世代上の方々が出演されていて、その時代を思い出しながら聴く事ができたので面白かった。

委 員 ラジオ番組の価値を上げ、ラジオ局の存在感を高める番組だった。理由の一つ目は、単なる振り返りではない、秘話満載の内容であったこと。二つ目は、開局65周年を機に探し出したという昔の音源、アーカイブの存在にある。三つ目は、ラジオが文化や社会運動を作り出す存在であったことを改めて気付かされたということ。上方漫才大賞が漫才文化を生み出したように、ラジオ大阪が才能を発掘し、ムーブメントを作る存在であることを改めて痛感した。四つ目は関西ラジオ界のレジェンドと語られていたように、浜村淳さんの存在。面白い番組、面白いモノを作るということはどういうことなのか、について、強いメッセージを出されていた。「野性

を取り戻せ」という浜村淳さんの言葉は、ラジオ大阪のみならず、多くの企業関係者にも響くメッセージであり、私達を鼓舞してくれるエールとも受け止めている。以上の点で、今回の番組を高く評価する。

委員 ラジオでテープカット中継を聴いたのは初めてで、原田アナも苦勞されたご様子。西川きよし氏は流石の話芸。声の抑揚、おかしみが効いて聞きやすい。早口になってもちゃんと聞き取れるのはさすが。生島ひろし氏との掛け合いも楽しい。これがラジオの真髄ではないか。「やすきよ」新人賞漫才は意外なほど西川きよし氏がボケ。印象が違って新鮮である。横山やすし氏のマシンガントークは当時から光っている。浜村淳氏の語りも、随分と声が枯れておられるが、お話しのリズムが優しく大変聞き取りやすい。さすがである。浜村淳氏の「ラジオ大阪はお行儀よくなった。もう一度野武士に。他局にない面白い番組を作ってほしい」というメッセージが心に響く。ラジオの楽しさを思い出させてくれる番組であった。

委員 番組として面白かったことには間違いない。前半よりも後半の浜村さん・望月さんの話が面白かった。浜村さんの声質が昔と違う事に驚いた。やすし・きよしの当時の漫才を聴いて、やすしが優等生的だったのが意外だった。2人とも努力されているのだと感じた。浜村さんの話は中身があり、当時のちょっとしたエピソードの数々がかなり面白かった。浜村さんのおっしゃる通り昔のOBCは何でもアリだったので、今はお行儀が良くなって残念ではある。

委員 今回はゲスト選びのバランスが難しかったと思う。今回聴いたレジェンドゾーンでは、まさに自分が体験した時代の話だった。浜村さん、西川さんファミリーの話を聴いて、当時のラジオ局は活気があり、良い時代だったと思いだされた。望月ディレクターの話も思い出があり、リスナーにとってもそうだったのではないかと思う。当時のOBCのにぎやかさやたくましが欲しいと感じる事はある。

社側 貴重なご意見、ありがとうございました。

議題2) 「大阪を前へ!」「兵庫を前へ!」について、

社側 8月30日の番組審議会でご審議いただいた「大阪を前へ!」「兵庫を前へ!」について、審議委員の皆様から、「これらの放送の内容は特定の政党に偏り、公平性を欠いていた」とご指摘をいただいたことを受け、弊社では、再発防止として、今後、全社研修の実施や

考査の強化の取り組みを行っていくことを決めました。

委員 これまでも（「番組の趣旨がわかりにくい」など）
色々意見が出ていたので、しっかり対策してほしい。

委員 研修を取り入れるのはいいことだと思う。

委員 （政党関係者などが出演する番組は）取扱いが難しいが、
ラジオに出演してはいけないということではない。
しっかり検証して報告してほしい。

社側 委員の皆さんからのご指摘を受け止め、さらに社内で議論を深め
改善に努めて参ります。
引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上